

大型液晶テレビ向け「VA用フィルム」の需要増に対応！
「超広幅フジタック」の製造ラインを新設
富士フィルム九州に160億円を投資し、生産能力を増強

平成 23 年 6 月 8 日

富士フィルム株式会社(社長:古森 重隆、以下富士フィルム)は、フラットパネルディスプレイ材料の主要生産拠点である富士フィルム九州株式会社(熊本県菊池郡、社長:坂本 敏、以下富士フィルム九州)に約 160 億円を投資し、「超広幅フジタック」の製造ラインを新設します。今回、建設する富士フィルム九州 第 4 工場第 8 ラインは、17 台目のフジタック製造ラインであり、平成 24 年 12 月に稼働する予定です。新工場では、「超広幅フジタック」の中でも大型液晶テレビの表示方式^{※1}のひとつである「VAモード」に使用され、液晶テレビの視野角の拡大やコントラストの向上に寄与する「VA用フィルム」を生産します。最大 2300mmの「超広幅VA用フィルム」の生産が可能で、40 インチ以上の大型液晶テレビの効率的な生産に貢献します。

液晶テレビは、低価格化や高性能化により、先進国に加え、新興国においても急速に需要が拡大しています。なかでも 40 インチ以上の大型液晶テレビの世界出荷台数は、年率 30%以上のペースで増えており、平成 23 年には、全世界で稼働しているテレビの約 50%を占める見込みです^{※2}。そのような中、当社の「VA用フィルム」の需要は急激に高まっており、当社は平成 24 年度に供給量を現在の 2 倍にすることを計画しています。当社は本年 4 月に「超広幅VA用フィルム」の新工場を稼働させ、生産能力を増強しましたが、拡大する市場のニーズに応じて、2 台目の「超広幅VA用フィルム」のラインを新設します。現在、「VA用フィルム」は、神奈川県と静岡県の工場で生産していますが、災害対応力の強化とリスク分散の観点から、今回、富士フィルム九州に新ラインを建設することを決定しました。

富士フィルム九州 第 4 工場第 8 ラインは、主に天然ガスコージェネレーション設備^{※3}による自家発電の電力で稼働します。また、本年 4 月に稼働した新工場^{※4}と同様、生産するフィルムの超広幅化、ラインのスピードアップとともに、生産工程で発生する蒸気を徹底して再利用するなどの省エネルギー対策を行うことで、単位面積あたりのエネルギー使用量を従来の半分にまで減らします。

また、新ラインの稼働に合わせ、現在主に「VA 用フィルム」を製造している神奈川工場(フラットパネルディスプレイ材料生産部)足柄サイト第 2 工場を中小型ディスプレイ向け製品開発の為の専用ラインとし、需要が急拡大するタブレット PC やスマートフォン向けフィルムの新製品開発、及び生産を更に強化します。

富士フィルムは、今後も新技術の研究開発を積極的に進め、フラットパネルディスプレイ材料の安定供給に貢献し、フラットパネルディスプレイ材料のリーディングカンパニーとして産業の発展に寄与していきます。

※1 液晶テレビの表示方式には、液晶分子をどう配向させるかによって、主に(1)TN(Twisted Nematic)モード、(2)IPS(In-Plane Switching)モード、(3)VA(Vertical Alignment)モードがある。32インチ未満テレビは(1)、32インチ以上テレビは(2)(3)の各モードが中心に採用されている。

※2 面積ベース

※3 発電の際に発生する排熱を蒸気や温水などで回収し、有効利用する熱電併給システム

※4 神奈川工場(フラットパネルディスプレイ材料生産部)足柄サイト第 3 工場

<新工場の概要>

工場名	富士フィルム九州 第 4 工場	生産品目	超広幅 VA 用フィルム(1330~2300mm)
建設場所	熊本県菊池郡菊陽町津久礼 2900 番地	生産能力	年間 35 百万㎡
投資金額	約 160 億円	延べ床面積	約 15 千㎡

<今後のフジタック供給体制計画>

	生産能力/年	合計能力/年	内超広幅フジタックの生産 能力合計
既存工場		710百万㎡	175百万㎡
富士フィルム九州 第4工場第7ライン <平成23年10月稼動予定>	70百万㎡	780百万㎡	245百万㎡
今回発表 富士フィルム九州 第4工場第8ライン <平成24年12月稼動予定>	35百万㎡	815百万㎡	280百万㎡

本件に関するお問合せは、下記にお願いいたします。
報道関係 広報部
インターネットホームページアドレス

TEL 03-6271-2000
<http://fujifilm.jp>